

説明は正しいか？

米本議員

【米本】 昨年から議論してきたフットボールセンター計画、

いつわりはない

町長

平成22年度中に議決しなければ補助が付かなくなるなど、3月定例会中に執行部から答弁があった。



しかし、この4月以降もサッカー協会からの予算が継続している。公の議場や公開の席上で議員の質問に対していつわりがあったのか。

【町長】 いつわることであってはならない。あくまでも平成23年度事業に対する補助金であり、翌年度以降には使えない。

発言の本意は？

米本議員

【米本】 3月定例会でサッカー場建設

報道各社が意味を取り違えた

町長

の2議案が否決となった。町長は議会後の取材に応えた。テレビや翌日の新聞各社は、「否決した議員はそれ以上の代替案を」などと、否決した議員が悪いような表現であった。町民も、「町長の言う言葉ではない。おかしいのでは」というような、多くの

声を聞いた。町長の本意はどこにあったのか。
【町長】 報道各社の表現に差があった。正確に伝わらなかつたのは残念な気持ち。「議会の議決は重いもの、私も重く受け止めるが、議員もその重さを感じてほしい」という意味での一言が取り上げられた。

住民投票条例の制定は？

米本議員

町長

【米本】 サッカー場建設では、住民説明会でも住民投票を求める意見が出ていた。地方自治法では、施設の建設は対象となっていないが、より町民と行政が一体となるまちづくりには必要なことだと思ふ。今回のサッカー場建

設計画のように、議会や町民が二分されるようなときには、特に必要だと思ふが考えは。
【町長】 法的拘束力もなく、代議制民主主義を形がい化するとの批判もあるが、住民自治条例を制定した後と考える。

失語症の認識は？

米本議員

町長

【米本】 失語症とは、脳を損傷し言葉の機能を損なう高次脳機能障害

脳障害によって起こる

の一つ。話すだけでなく、聞く、読む、書くのそれぞれに影響が残る。失語症に対する認識は。
【町長】 脳の障害により自分の意図通りに話ができない。また、相手の言葉が理解できない状態と認識している。
【米本】 本町の実態の把握は。
【町長】 失語症の症状がある人と失声症や認知症の人の一部

を含み約80人。
【米本】 災害時の対応は。
【町長】 失語症での特定はしてないが、災害時の要援護者として障害者も一定基準によりデータベース化している。大規模災害時には、行政だけでの対応は不可能に近い。災害弱者のすべてを地域ぐるみで助け合い、支えあう仕組み作りが有効かつ効率的である。